

当科では主として糖・脂質代謝疾患および内分泌疾患の診療を行っています。入院で最も多い疾患はやはり糖尿病です。平成24年に行われた厚生労働省の国民健康・栄養調査では日本人の5人に1人が糖尿病、又はその疑いがあり、非常に多くの治療を必要としている患者さんがいます。糖尿病では心臓や、脳、大腿動脈などの粥状動脈硬化が進みやすく、これらに原因する心筋梗塞、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症などで死亡する人達で平均寿命が5~10年短くなっています。このような重篤な疾患にならないでも、細い血管が痛むことにより、失明したり、透析が必要になったり、自律神経障害などが起こり、通常の楽しい生活が送れなくなることが出てきます。これらを予防するために、血糖、血圧、コレステロールなどをコントロールすることが当診療科の役割です。

当院では日本糖尿病学会の専門医、日本動脈硬化学会の指導医、さらに日本老年医学会の専門医、指導医でもある村野俊一が診療責任者となり、糖尿病療養指導士資格をもつ、看護師、臨床検査技師、栄養士、理学療法士がチームとなって糖尿病の治療にあたっています。特に毎月第2水曜日に入院して、2週間の期間で食事療法、運動指導、フットケア、糖尿病薬の効き方や使い方で注意すべき点の丁寧な解説などの講習を受けながら、栄養士が作った糖尿病食を摂り、糖尿病の病態、合併症の進行状況を評価するための専門的な精査などを受けていただく教育入院のシステムは我々が誇りとしているところです。これにより、約半数の患者さんは従来の治療のまま、食事、運動療法のみで改善して退院します。過剰な薬を減らせた患者さんもいます。

さらに、治療が困難であった患者さんでも、その人の糖尿病の病態に適した治療法を見つけてあげることができて改善し、入院してよかったとのご感想をいただくことが多いのは、大変うれしいことです。この教育入院には、連携する診療所の先生方からのご紹介が多く、検査結果を添付してお返しするので患者さんにも、先生方にも喜んでいただいています。できる方は半年後に一度来院をしてもらって、改善した結果が持続しているかをチェックさせていただいています。この教育入院の定員は5~6人/回となっています。

また、専門医療機関としてCGM(持続血糖モニター)検査ができます。これは約5分間ごとの血糖値の連続記録が出ますので夜間の無自覚性の低血糖を検知したり、食後の血糖の思わぬ上昇を見つけたりでき治療法の選択に大変役立つ情報が得られます。外来で患者さんに柔軟なビニールの皮下針を装着してもらい、5日程度の連続の血糖変化の記録としてご提供できます。ご希望があればカンファランスにかけてのコメントを添付することもいたします。この他、簡単、無侵襲の頸動脈エコー検査での動脈硬化の評価も高脂血症、糖尿病の治療目標を立てるにあたって大変有用な検査です。診療所からのご紹介には検査結果を添付してお返ししています。

## 診療担当日

※ 診療日時、担当医師は最新の外来診療表をご覧ください。

## 医師紹介

<b>村野 俊一</b>	
役職	病院事業統括監
資格	日本内科学会 認定医 日本人間ドック学会 認定医・指導医 日本老年医学会 専門医・指導医 日本糖尿病学会 専門医 日本動脈硬化学会 指導医 日本糖尿病協会 療養指導医 臨床研修指導医
所属学会	日本内科学会 日本人間ドック学会 日本老年医学会 日本糖尿病学会 日本動脈硬化学会
<b>黒須 敦</b>	
役職	医員
所属学会	日本内科学会 日本法医学会 日本糖尿病学会